

タスマニアと日本の価値観や考え方の違いについて

香川県立三木高等学校
総合学科 1 年 黒木優里

私の将来の夢は、日本だけでなく、世界の人々を助ける看護師となる事です。
そのために国際的な視点を養いたいと思い、このタスマニア派遣事業に応募しました。
タスマニアホームステイの中で、印象に残っていることを紹介します。

まず、私がタスマニアのホバートを訪れて一番に感じたことは、街がとても綺麗だということです。街のいたるところにゴミ箱が設置されているのが印象的でした。

また、日本だと食事を残すことはもったいないと言われて育ちましたが、ホストファミリーが、家やレストランで食事を残すことに、当初は戸惑いました。タスマニアでは『残したらもったいない』という概念が薄いように思いましたが、実際は生ごみを肥料等にリサイクルしていることを知りました。リサイクル率は日本の 20%に比べオーストラリアは 60%と非常に高く、このような仕組みがあることが背景にあるのかもしれません。とはいえ、私は残すことには罪悪感があり、必死に食べました。

また、タスマニアの学校へ訪問し、日本文化発表の中で折り紙による手裏剣の折り方を紹介しました。小学生は手裏剣をあまり知らないようでしたが、高校生くらいになるとほとんどが知っていました。日本のアニメの影響かもしれません。

現地の日本人教師から『日本人ほど器用じゃないから、上手く折れないかもしれない。』と事前に聞いていたため少し不安がありましたが、皆一生懸命取り組み、『これで合ってる?』『あ!こうか!すごい!』『みて!できたよ!』とたくさん話しかけてくれました。手裏剣を作れた人からの的当てをして遊びましたが、日本と異なり、恥ずかしがる子もおらず、とても好奇心旺盛で、順番に並ばず我先へと的へ投げていくので、先生は『あぶない!』と叫び大変そうでしたが、とても盛り上がりました。私は、折り紙一枚で言葉の壁を越え、異なる文化を持つ人々と理解し合える瞬間は、こんなにも楽しめるものなのだと嬉しく感じ、もっと相手を知りたいという思いが強くなりました。

生まれて初めての異国の地での生活が、これほど充実したものとなったのはホストファミリーをはじめ、渡航前の準備から現地でのサポートに携わってくださった皆様のおかげです。

このような素晴らしい機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。



▲7月29日折り紙で手裏剣を作成している様子